

議
会
だ
よ
り

山都

第 58 号

熊本県山都町議会

2025.11

9月定例会



祝国宝通潤橋



表紙写真の説明はP14に掲載

9月定例会

令和7年第3回定例会は、9月4日に開会し25日に閉会しました。

【議案】専決処分事項(1件)、条例(6件)、補正予算(5件)、その他(6件)、報告(1件)、諮問(1件)、令和6年度の一般会計・特別会計、企業会計における決算審査

令和7年度一般会計補正予算(第4号)

令和7年度一般会計補正予算は、3億7,200万円を追加し総額149億6,900万円となりました。主な内容は次のとおりです。

専決処分

衛生費

- ・環境衛生費 1,129万6千円
 - 【飲料水供給施設等の修繕に伴うもの 300万円】
 - 【小規模等水道施設整備に伴うもの 829万6千円】

商工費

- ・観光施設費 1,161万円
 - 【観光施設修繕に伴うもの 265万5千円】
 - 【五老ヶ滝遊歩道災害復旧に伴うもの 192万1千円】
 - 【観光施設修繕改修工事に伴うもの 703万4千円】

土木費

- ・道路維持費 1,100万円
 - 【町道修繕に伴うもの 800万円】
 - 【町道修繕工事に伴い重機を借上げるもの 300万円】
- ・公営住宅等管理費 452万円
 - 【住宅修繕に伴うもの】
- ・災害復旧費
 - ・現年度農業施設災害復旧費 6,600万円
 - ・現年度林業施設災害復旧費 300万円
 - 【災害復旧費に係る重機を借上げるもの】
 - ・現年度公共土木施設災害復旧費 8,900万円
 - 【災害復旧費に係る重機を借上げるもの 1,200万円】
 - 【災害復旧工事に伴うもの 7,500万円】
 - 【災害復旧工事に係る材料購入に伴うもの 200万円】

となる。

また、山神山公園の法面崩土の2件

3万4千円の説明を。

問(藤川) 観光施設修繕改修工事70

小柏原)の災害復旧となる。

福寺、瀬峯、中園、久保野、葛原後谷、

困、津留本村)と、小規模水道施設(金

答(環境水道課長) 飲料水供給施設(菅

補助金829万6千円の説明を。

問(飯開) 小規模等水道施設整備事業

一般会計専決予算

質疑応答

【お詫びと訂正】

議会だより第57号の2ページ「令和7年度一般会計補正予算(第1号)」の事業内容に関し、2箇所間違いがありました。お詫びして、訂正します。

○1箇所目

(誤) 戸籍情報システム改修委託料287万1千円
令和7年5月6日の改正戸籍法施行により
(正) 戸籍情報システム改修委託料287万1千円
令和7年5月26日の改正戸籍法施行により

○2箇所目

(誤) 放課後児童クラブ運営業務委託料300万円
*財源：一般財源
(正) 放課後児童クラブ運営業務委託料300万円
*財源：国(1/3)、県(1/3)、町(1/3)

一般会計

総務費

- ・諸 費 【防犯カメラ設置支援に伴うもの】 512万円
- ・企画費 【物価高騰対応生活者支援に伴うもの】 700万円
- ・物価高騰対応重点支援地方交付金事業費 750万円
- 【社会福祉施設等物価高騰対策支援に伴うもの】

衛生費

- ・予防費 【予防接種に伴うもの】 440万1千円

商工費

- ・商工振興費 【山都町キャッシュレス決済ポイント還元事業運営を委託するもの】 3,000万円

教育費

- ・通潤橋保存活用事業費 【御小屋解体保存工事実施設計等業務委託に伴うもの】 1,065万2千円
- ・中央グラウンド周辺整備事業費 2,260万円
- 【喫煙所設置に伴うもの 1,150万円】
- 【屋外監視カメラ設置に伴うもの 1,110万円】

災害復旧費

- ・現年度林業施設災害復旧費 【災害復旧工事に伴うもの】 387万円
- ・現年度公共土木施設災害復旧費 5,867万円
- 【災害復旧測量設計を委託するもの 237万円】
- 【災害復旧工事に係る重機を借上げるもの 30万円】
- 【災害復旧工事に伴うもの 5,600万円】

一般会計補正予算

質疑応答

問(坂本) パソコン購入費745万8千円の内訳は。

答(企画政策課長)

Windows 11に対応するために19台、新規採用職員のため16台、デスクトップ8台。

リモート会議やリモート窓口用、緊急時対応用等のための購入。

問(矢仁田) キャッシュレス決済については、よそからの利用が多い印象がある。町内にどのように還元されているのか。

答(商工観光課長) 今回4回目となり事業実施は来年1月を予定。ポイント還元率は20%、1回あたり6000円(6000ポイント)まで、期間上限3万円(3万ポイント)。町内のキャッシュレス決済を導入している業者が取り扱う。ポイント付与を2500万円見込んでいますので、決済としては1億2500万円が町内への経済効果と見込まれる。

問(眞原) キャッシュレス決済ポイント事業の前の実績は。

答(商工観光課長) 令和7年1月6日から31日まで実施。ポイント付与

は約1600万円、決済総額約8400万円。還元率20%。年代別利用者としては、20代が10%、30代が18%、40代が23%、50代が25%、60代が18%、70代が5%でまんべんなく利用されていると言えるのではないか。

問(西田) 4回目となるが、商品券にする検討はあったのか。

答(商工観光課長) 商品券事業も一定の効果があると承知しているが、経済力のある方にメリットがあるとの意見もある。また、高齢者の方の利用実績も上がってきている。生活者支援と、経済効果含めてトータル的にこの判断をした。

【山都町キャッシュレス決済ポイント還元事業】

還元率	20%	
	使う金額	還元ポイント
1回 当たり 上限	30,000円分の 買い物をした 場合	6,000円 (6,000ポイント)
	150,000円	30,000円 (30,000ポイント)
期間上限	150,000円	30,000円 (30,000ポイント)

8月豪雨災害の被災状況

・家屋等の被災状況(被災証明書申請より)

地区名	物件の種類				被災原因				
	住宅	倉庫	その他①	計	土砂流出	床上・床下浸水	倒壊損壊	その他②	計
下矢部	15	8	4	27	21	2	4		27
浜町	15	4	8	27	16	8	1	2	27
御岳	5	1	1	7	7				7
白糸	4		1	5	4		1		5
中島	1	1	2	4	3		1		4
名連川	2		2	4	4				4
蘇陽	1			1				1	1
合計	43	14	18	75	55	10	7	3	75



今回の豪雨で被災した家屋

その他① カーポート、車庫、石垣、畜舎、卓球場、事務所・店舗、車、機械など

その他② 雨漏り、土砂による宅地流出

り災証明書交付状況(22件) 一部損壊16件 準半壊3件、半壊、中規模半壊、全壊各1件

・農地等災害の申請状況

農地 田・畑 1,111件

農業用施設 625件

合計 1,736件 被害額44億円

※件数、金額については変更の可能性あり



藤木道路災害

・公共土木施設の被害状況

町道 202箇所

町河川 151箇所

計 353箇所 被害額31億円

※被害調査中につき変更の可能性あり(R7.9.17)



町河川 名ヶ川

・雨量(山都町 三ヶ地区)

8月10日22時から11日12時まで(14時間)の総雨量463mm

8月11日1時から2時までの1時間最大雨量110mm



や に た ひ で の り
矢 仁 田 秀 典 議員



全質問の動画は
こちらです

8月豪雨災害復旧スケジュールと
山都町観光ルート整備について

問 復旧工事のスケジュールはどの
うなっているか。

答（農林振興課長）現在、現地立
ち合いをし、順次、測量・査定設
計書を作成。その後、国の災害査
定を受け、4月以降、事業の認定
を受け発注・入札に進む。

問 町内の業者は令和3年、令和
5年の過年度分の残工事があり、
事業者不足が見込まれる。早急に
進める対策を考えているか。

答（総務課長）山都町建設業協会
と協議しながら迅速な対応に努め
る。

問 大正9年に県道認定をされて
から100年以上経つのに、残り
9kmが未開通の主要地方道（国道
に準ずる）矢部阿蘇公園線は、国
宝通潤橋と阿蘇を結ぶ観光ルート
にもなるし、南阿蘇にとっては災
害時の避難道路として有効だと考

えるが。

答（建設課長）世界文化遺産を目
指す阿蘇と国宝通潤橋を擁する山
都町をつなぐ新たな観光ルートと
して、観光誘客道路として多大な
効果をもたらすことが期待でき
る。しっかりと南阿蘇と連携し進
めていく。

問 山都通潤橋インターから通潤
橋までのルートは分かりづらくア
クセスが悪い。道路整備の考えは
ないか。

答（建設課長）案内看板で案内し
ている。町道浜町下名連石線の2
車線化を実施するため、概略設計
を行っている。

中央公民館から通潤橋まで、
県知事に車両通行及び歩行者の安
全面に配慮した改良の要望書を提
出している。

問 町内に数多くある滝は観光資
源になると思うが、観光ルートと
して整備してはどうか。

答（商工観光課長）本町の自然景
観や四季折々の風景を織りなす環
境の中で代表的な存在であると認
識しているが、整備については一
部にとどまっておりルート設定ま
では行きついていない。整備や安
全確保等課題の整理が必要だと考
える。



さかもと こうせい
坂本 幸誠 議員



全質問の動画は
こちらです

山都町の歴史・文化を観光に
もって活用できないか

問 通潤橋周辺整備計画の中で、
岩尾城の再建について、町長のお
考えは。

答（町長）岩尾城についても、また、
その周辺についても、非常に大事
な文化財であると認識しているの
で、今後そういった所についても
適宜整備を進めていければと考え
ている。

問 歴史文化課の必要性について
伺いたい。必要と思うのであれば、
作っていただきたい。それが
トップである。

答（町長）山都町においては、こ
ういった歴史、文化、非常に重要
なものがたくさんあり、そこを整
理する部署としては今後必要に
なってくると思っている。

問 浜の館の出土品は、町の財産
だと思う。今、県立美術館のほう
で丁寧に保管してあるが、誰も見
ることができない。山都町の宝と
して展示して、観光客に見せてほ

しいと思うがいかがか。
答（教育長）浜の館の出土品につ
いては、室町時代後期から戦国時
代にかけて、山都町に本拠を構え
た阿蘇大宮司氏の居館であった浜
の館跡より出土した考古資料のこ
とと承知している。現在ちょうど
県立美術館で展示会が開かれてい
る。

そのうちの合計21点が、肥後
阿蘇氏浜の館跡出土品として、昭
和61年6月6日に国重要文化財の
指定を受けており、山都町だけで
なく全国的にも貴重な宝であると
認識している。山都町の繁栄の歴
史でもある阿蘇家にスポットを当
てた展示会は、町民の歴史感や郷
土愛によい影響、好影響を及ぼす
ものと思われる。また、本町を訪
れていたいただいた皆さんにも、山
都町の歴史や魅力をPRする機会に
もなると期待ができる。

問 町の広報紙に町の歴史関係の
ページを入れるようお願いしてき
たが、どうなっているか。
答（教育長）下期以降には、町に
所在する文化財に関するトピック
スとか、過去に刊行している報告
書をベースとした記事などを、不
定期だが掲載することを検討して
いるところである。限られた人員
の中で、可能な範囲での準備とな
るので、もうしばらくお時間をい
ただきたい。



吉川 美加 議員



全質問の動画はこちらです

不登校児童生徒への支援は重層的サポートが必要ではないか

問 全国的には小中高合わせて40万人を超え増加し続ける不登校の児童生徒だが、本町の実態はどうなっているのか伺う。その状況を憂い、実数や割合を知りたいという町民の声を聞いている。

答（教育長） 学力調査でも「平均点を聞きたい」などの意見があるが、人数や平均点を出し比較することに教育的意義を見出せないと考え、本町では数字を発表することとは行っていない。各学校では、個々の児童生徒に対して、その子どもの学力や社会性を伸ばすために努力をしており、更に、現状改善にあたるよう取り組みを進めている。

問 以前は適応教室と言っていた「やまと教室」であるが、最近では教育支援センターと言い、その役割も変化しているようだ。不登校児童生徒を支援する「やまと教

室」について伺う。

答（学校教育課長） 「やまと教室」は町が設置しているもので、学校へ行けない児童生徒の状況に応じて学習支援、活動支援などを行いながら学校への復帰を目指している。

問 教育支援センターは、学校へ戻ることのみをゴールとするべきではないということをお願いしておく。支援する中で教育委員会と福祉課の連携はどうなっているか。

答（学校教育課長） 「やまと教室」への通室は、家庭や本人と話し合い、希望があれば繋いでいる。4人の支援員を配置し、その児童生徒の状況を見ながら、学校復帰を性急に進めることなく、寄り添う支援をしている。

答（福祉課長） 福祉課で設置している「こども家庭センター」では年間200件の相談を受けている。ほとんどが家庭内の課題や心配事であり、ケースに応じて訪問支援を実施している。不登校についても教育委員会や対象になる学校、また「やまと教室」と情報共有を行いながら、適切な対応を進めている。「やまと教室」とは不定期ではあるが、情報共有と共に連携体制を強化しているところである。



東 浩昭 議員



全質問の動画はこちらです

記録的大雨について

問 被害に対する国・県・町等からの支援内容については、国、県からの補助もあると思うが膨大な被害額、件数の為、町からの補助等の上乗せができないか伺う。

答（町長） 今回のこの災害においては、町としても、できる限りの支援を、これまでの制度を見直しながら行っている。国、県の支援を引き出しながら、少しでも地域の農地が守られ、農業に取り組んでいただけのような支援と一緒にやって行っていければと思う。

問 復旧事業で区画整理事業等あるかと思う。その際に、先々農業しやすい環境作りを進めていくべきではないか。

答（町長） 山都町にとっての基幹産業である農林業の振興は大事で効率のよい農業をするためには、農地の整備というのも大事だと考えている。国、県にも要請し、できる限りまた農業に取り組みうという農家がこれからも維持ができる

形で、取り組みたいと考えている。

問 災害が頻発する中で、迂回路の整備というのは必要だが、通常の迂回路の設定、確保等の計画について伺う。

答（建設課長） 今回の場合、県道、町道等通行止め箇所を特定し、それに接続している道路の安全を確保し、迂回路として利用している状況。町道の改良率は42・5%であることから、まだまだ道路改良工事を進めていく必要があることは認識している。

答（農林振興課長） 町が管理する林道は、今回の豪雨により崩土や路肩決壊など、主に矢部地区で102か所の被害。路肩決壊や道路自体が崩落しており、現場に到達できない箇所も多数で今回の災害において、国、県道や町道の迂回路として林道を使用した例はない。

問 災害箇所を写真に撮って、防災係へ送信するシステムの活用状況は。

答（総務課長） スマホやタブレットで利用できる町の防災アプリ「ライフビジョン」では、被災状況写真や、その位置情報などを投稿できる機能があるが、活用できなかった。

今後、各地区の区長、地域の代表者等からの情報収集手段を含め、改善策を考えていきたい。

問 後継者としての新規就農や親元就農が増えることが大切だが、これに対する様々な助成についての説明を。

答（農林振興課長） 親元継承支援として、上限100万円。農業後継者就農支援交付金、就農時1回だけ50万円（夫婦だと70万円）新規就農については、就農前の研修支援ひと月12万5千円最長2年間経営開始支援としてひと月に

問 被害金額40万円以下であれば農業災害とならず、自力復旧という選択があるが、自力復旧ができない農家については、町独自で農業災害扱いとして支援することはできないか。

答（農林振興課長） 農地を守り、農業の継続性を図るのには有効性があると思うが、財政、人的課題がある。

農業をあきらめないで続けられるための支援拡大を



にしだ ゆみこ 議員
西田由未子 議員



全質問の動画はこちらです

問 収入保険の説明を

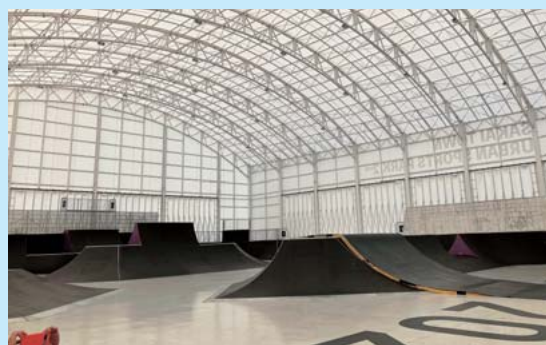
答（農林振興課長） 自然災害による収量減少、価格低下、盗難や運搬中の事故、取引先の倒産、病気等で収穫ができない場合など、農業者の経営努力では避けられない収入減少を保障される保険制度。前年度青色申告を行っていることが必要。令和6年は391件の青色申告があり、そのうちの117件が収入保険加入者となっている。

問 掛け金が高いことが、保険加入の壁となっている。新規加入から一定期間でも、掛け金の補助ができないか。

答（農林振興課長） 現時点では考えていないが、他自治体の状況を見て、考えたい。



常任委員会視察研修



全天候型アーバンスポーツパーク

【研修内容】①移住・定住の先進地視察（境町） ②農業を活かしたまちづくりの先進地視察（常総市）

①境町の取り組み ふるさと納税の獲得に成功し、オリンピック施設を含めたスポーツ施設の整備、子育て支援の充実（あらゆる施策を全国トップレベルに引き上げ）、英語教育充実に向けたALT増員などを、スピーディーに実現。若い世代の移住に繋げている。

総務常任委員会

日時 7月7日（月）～8日（火）
場所 茨城県 境町・常総市

②常総市の取り組み 首都圏の圏央道の開通に伴い、常総IC周辺に道の駅を整備。さらには、民間と連携し「アグリサイエンスバレー常総」の整備を進めている。6次産業化を進める農業エリア（大規模施設園芸・観光農園・加工施設）と集客を担う都市エリア（食品物流会社・民間集客施設・温浴施設・その他賃貸物件による集客施設）に分けた構想で、2千人以上の雇用創出と3億円以上の税収増加を目指している。



厚生常任委員会

【研修内容】ごみ焼却を行わず、持続可能な資源循環型社会の構築に取り組む自治体の例を学ぶ

①バイオマス資源化センターみとよ 三豊市では、ごみ焼却を廃止し、微生物による発酵及び乾燥処理によって燃料とする資源化を実現している。

・生ゴミは微生物の力で発酵・分解され消滅する

・可燃ごみ(紙・プラ)は、発酵時の高温で乾燥されてバイオ燃料に(※1)

・年間ごみ量1万トンのうち5千トンがバイオ燃料となり、近隣の製紙会社へ販売

・プロポーザル方式の委託で整備を進め、民設民営

・三豊市のリサイクル率は60%(全国平均20%)

②ゼロ・ウェイストセンターW H Y 上勝町は2003年に「ゼロ・ウェイスト宣言」を行い、焼却処理に頼らない資源循環の実現に向けて、住民と行政が一体となった取り組みを進めている。ごみ収集及び、ゴミのリサイクル発信拠点

日時 7月23日(水)～25日(金)
場所 香川県三豊市・徳島県上勝町

であるこのセンターが、2020年5月に開設した。

・家庭から排出されるゴミは、センターで43種類に分別

・生ゴミは各家庭で堆肥化
・ゴミ収集車はなく、各家庭から持ち込むシステム

・センターに持ち込めない高齢者世帯には行政による巡回支援があり、見守りにも繋がっている



(※1) 圧縮梱包機の視察の様子(三豊市)

経済建設常任委員会

【研修内容】令和2年豪雨災害復興からのまちづくり(人吉市)

トップアスリート誘致によるまちづくり(水上村) 国宝霧島神宮の観光活用と駅周辺の開発(霧島市) 「教育日本一のまち」を目指す宣言と実現に向けた取り組み(伊佐市)

①人吉市の取り組み 特に被害が大きかった「まちなか」エリアを対象に人吉市まちなかブランドデザイン推進アクションプランを起し、社会実験を通してながら官民連携で復興を進めている。

②水上村の取り組み 以前開催していた奥球磨ロードレースで、アスリートが集まる下地があったところに、高地によるトレーニング施設整備の構想を立案。「アスリートキャリアセンター」と連携協定を結ぶなど、スピード感のある整備事業を展開している。整備された「スカイビレッジ」には青山学院大学が毎年合宿している。

③霧島市の取り組み 国宝霧島神宮の観光客はコロナ禍以前の半分ほどだが、インバウンド客の回復は順調。霧島神宮までのアクセス

日時 6月24日(火)～26日(木)
場所 熊本県人吉市・水上村
鹿児島県霧島市・伊佐市

改善のために、民間バス会社に助成して空港からの直行便を運行している。

④伊佐市の取り組み 「教育日本一のまち」では、学力ではなく「心」を育てる教育を展開しており、市の潜在能力を上げる効果が期待できると感じた。また企業誘致に際しても市長自らが足を使い実績を上げていく。

⑤ランバーやまと人吉工場 山都町企業の人吉市進出を視察。今後の展望と山都町政への要望などをヒアリングした。



水上村役場 青山学院ユニフォーム展示

○令和6年度山都町一般会計・特別会計及び企業会計の歳入歳出決算について、各常任委員会で審査を行い、認定しました。

○常任委員会毎にまとめられた報告書の概要・抜粋は次の通りです。

総務常任委員会

総務課

人材育成、公務能率やパフォーマンスの向上は急務。人事評価制度の結果活用が開始されたが、職員の理解を深めるため、評価の公平性が保たれるよう、評価する側の研修が特に大事である。

本町工事入札において令和6年度は、692件であったが、今後、度重なる災害が予想され、さらに増える可能性がある。電子入札システムの利用による事務の効率化、透明性、公平性の確保に努めて欲しい。

防犯対策において防犯カメラ設置事業は、今後とも、地域団体、町民の間でも関心が高く、事業の推進が望まれる。総務課に演習場対策室が設置されたが、自衛隊と地域住民との良好な関係のもと、多くの課題が、順調に進捗しているよう努めて頂きたい。

教育委員会

〈学校教育課〉 義務教育学校の設置方針変更後、住民説明会及び保護者説明会を7回



公共の場への防犯カメラの設置

実施している。今後は準備委員会を経て基本構想・基本計画を策定することになるが、想定以上の児童生徒数の減小を見ると、義務教育学校の新校舎の設置が本場に適正なのか、既設の学校利用等も選択肢の一つにされたい。

〈生涯学習課〉 中央グラウンド周辺整備事業では、残すところ中央グラウンド整備のみとなった。全ての施設において、利用率向上と収益増加を図るため、スポーツ合宿等を積極的に誘致し、ひいてはスポーツの振興や地域経済の活性化につながるよう努力されたい。

企画政策課

民間バス路線の廃止に伴い、浜町〜馬見原にコミュニティバスを運行、またデマンド型乗合タクシーの実証運行は町民の交通利便性確保に役立っている。オンライン申請フォームに、マイナンバーカードの本人認証機能及びオンライン決済機能を追加しオンライン申請機能が拡充され便利になった。

税務住民課

町の貴重な財源である税金の徴収について、個人町民税99・24%、法人町民税100%、固定資産税99・41%と高収納率を上げており、町民の納税意識の向上と取組に対する責任感の高さがかかる。

支所

支所業務については、窓口業務が適切に行えるよう職員配置に十分考慮していただきたい。また、行政サービスを低下させないような組織体制の構築を図る必要がある。

清和水利発電所については、廃止及び第三者への譲渡手続きが急務。

厚生常任委員会

令和6年度の事業について、監査委員の決算報告を踏まえ、各課の成果報告書を基に審査。急激な少子化にあつて国の政策が追い付かない感があるが、広い山都町に点在している町民の健康的な生活を守るため、限られた政策メニューや人材の中で日々努力して頂いていることを評価したい。

福祉課

人口減少と少子高齢化が進む中、地域住民が安心して暮らしている環境づくりには、幅広い分野での支援体制の充実が必要である。福祉係で進めている重層的支援体制整備事業では、あらゆる困りごとを包括的に支援する体制づくりを、関係課や関係機関と連携しながら取り組んでいる。相談内容は多岐にわたることが多いため、相談者一人ひとりに寄り添い、継続的な支援を進めていくことが重要である。

高齢者福祉の分野では、集落支援員をシニアクラブに配置し、連合会としての活動を活性化させている。会員数が減少し解散するクラブもあるようだが、一方でシルバーヘルパー活動やボランティア活動など、意欲的な活動を展開しているクラブ

もある。高齢者の生きがいづくりや、地域の見守り体制の充実を図るため、シニアクラブ役員と協力しながら体制づくりを進めていただきたい。

子育て支援については、子ども医療費助成の現物支給化、出産・子育て応援ギフト事業、産後ケア事業など支援制度を充実させている。さらに、こども家庭センターの体制も整ってきていることから、病後児保育室やファミリーサポートセンター事業などの既存事業を推進するとともに、出生数が減少する中でも安心して子育てできる環境整備に取り組んで頂きたい。

健康ほけん課

国保事業は加入者の減少により減収、また同時に医療給付費の増加もあり、運営は厳しい状況にある。引き続き住民健診の受診率の引き上げをはかり、病気の早期発見を促し糖尿病をはじめとする生活習慣病の重症化を防ぐ取り組みを望む。母子保健の現状については、出生数が激減している中ではあるが、不妊治療に取り組む方も年々増加の傾向があり、町内で出産、育児を希望されている家庭があることを認識した。

小学5年・6年生を対象として



小児生活習慣病予防教室の様子

小児生活習慣病予防健診及び小学5年生とその保護者を対象とした小児生活習慣病予防教室も続いている。相変わらず保健指導該当者がいるものの、今後も継続した取り組みの中で小児と家庭の食生活を中心とした生活習慣の改善を働きかけて欲しい。

母子健康から高齢者の健康寿命延伸まで広範囲にわたる仕事であるが、町民の健康政策を預かる担当職員の心身の健康維持を願うと共に、課内での連携を密にして健康ほけん事業に邁進して頂きたい。

環境水道課

生活排水による水質汚濁防止のために、合併浄化槽設置補助が行われてきたが、設置状況が伸び悩んでいる。狭い敷地でも設置できる改良型の周知や、設置推進の工夫をお願いしたい。

家庭ごみの収集については、令和6年度からプラスチックの分別が始まり、燃やすごみの量が減り

最終処分量の減少にもつながったことは評価したい。小峰クリーンセンターでの焼却は令和6年度で終了し、令和7年度から熊本市への焼却委託が始まるが、今後さらなる燃やすごみ減量のための工夫や、町民への啓発を期待する。

自家消費を目的とした太陽光発電と蓄電池をセットにした導入補助や、省エネ家電購入促進事業が新たに始まった。温暖化抑止のためにも、続けてほしい。

一般廃棄物処理施設広域化については、環境影響調査の配慮書、方法書の段階が終了し、県知事からの意見書が提出された。建設予定地の造成範囲、費用、工期等を明確にするための概略予備設計の業務委託が発注されている。今後環境影響調査の終了を経て、どのような施設が望ましいのか慎重な論議が必要である。



令和7年度から処理委託している東部環境工場（熊本市東区戸島）

経済建設常任委員会

令和5年豪雨災害の復旧工事に全力で取り組んでいる最中に、再度の大きな水害が発生してしまった。災害復旧には財政負担だけでなく職員の事務負担も大きくなり、平時の事務を圧迫する。それでも山都町民の生活と産業を元通りにするためには、災害復旧を最優先に取り組んでいかねばならず、担当職員の奮闘に期待する。

農林振興課

有害鳥獣被害については依然として深刻な状況にあり、抜本的な対策が求められている。国との協議を進めるとともに、実証実験的な取り組みを行い、最新技術を活用した防護柵の設置や生態系管理の強化などを考えていく必要がある。また、有害鳥獣捕獲支援事業の拡大や捕獲者の育成を行い、活動の効果を継続的に検証していく必要がある。

今年度も農地等の災害復旧事業の増加が予測されており、取水施設（堰等）や農地の復旧について迅速な対応が必要と思われる。関係機関との協議を密に行い、必要な計画変更や予算追加を速やかに申請し、農地等災害復旧事業の早期完了を図ってほしい。

山の都創造課

定住促進事業で、定住に向けた二つの補助事業においてそれぞれ15件と21件の実績が上がっていることは評価したい。定住促進に寄与するだけでなく、移住者の増加も見込めるので、山の都地域しごと支援事業・空き家の活用等の制度と連携し、継続的な効果が出ることを期待する。

SDGsでは、出前講座・企業との連携・生ごみ堆肥化事業・山都町SDGs表彰制度の取り組みがなされた。中でも「SDGsシンポジウム・マルシェ」の開催は、福祉まつり及び有機米サミットと同時開催で道の駅清和文楽邑一帯で開催され、SDGsについて、住民みんなで考えるよい機会であったといえる。少子高齢化・人口減少が続く中で、今後もこうした同時開催等により、最大の効果が展開出来る取組みを望む。

商工観光課

令和6年度はデジ田交付金を活用し観光DX事業に取り組み、デジタル観光マップ、観光施設多言語整備、観光アンケートをWeb上で展開。山都町来訪者への情報提供を充実させると共に、来町者の属性データ、行動データ、購買実績データを取得し分析してい

る。これらのデータをより有効な観光施策に展開することを期待する。

また、商工振興の取り組みとして実施された事業所改修等支援事業では、補助金を交付することで起業や事業拡張への民間投資を刺激しており、8件の実績を上げている。町内の経済活動活性化につながっており、今後の継続に期待する。

通潤橋周辺整備事業という大きなプロジェクトも、短期間の中で着実に進んでおり、国宝通潤橋の見学客に対する居心地の良い空間提供と、消費行動の喚起を目指す姿勢が見て取れる。計画通りに全工事を完了させ、新しくなった通潤橋エリアを核とした山都町全体の観光振興を目指してもらいたい。

建設課

近年の異常気象により災害が頻発する中、社会資本整備では国道・県道・町道・橋梁、砂防、河川、住宅等、と、本町の広範囲な面積のため、その種類は多く、改良及び維持工事、管理・修繕関係



山都町デジタル観光マップ（スマホ版）

等、町民からの要望も多岐にわたり、事業額も多大であるが、インフラ整備に伴う効果測定の予備調査など熊本県と協力し、各補助事業を有効に活用し実施している。住民からの要望度が高い各事業であり、今後も国・熊本県と密に連携し財源の確保を図り、地域住民と一体となった安全・安心な社会資本整備をさらに進めていただきたい。

公共土木施設災害復旧事業について、令和4年災まで工事を完了出来たことは評価する。しかし、令和5年災（234件）と令和6年災（35件）の合計269件について、137件は令和6年度までに完了したが、残りの132件について、令和7年度に繰越事業となっているため、早期の完工をお願いしたい。

結び

合併20周年を迎え、道の駅の開駅、中央グラウンド周辺・通潤橋周辺整備などを進め、来町者の増加に努めてきたが、経済活動につながる取り組みがまだ不十分と思われる。町内の観光地への周遊など滞在時間の延長を図り、特に宿泊施設の充実を望む。

ここ数年少子高齢化が進み、若者の減少があらゆる所に影響を及ぼしている。事業の継続の断念や、自然豊かな景観の維持も厳しくなりつつある。このことは農林業、商工業、福祉事業すべてに関わる事なので、若者の定住を促す政策を推し進めて欲しい。コミュニティバスからデマンド型乗合タクシーの制度や通院手段のない住民を対象とした移動型医療サービス（医療Mass）の運行を開始したことは高く評価できる。本町は様々な課題を、前向きに捉え政策を進めているが外部のコンサルなどへの丸投げのような印象を持たれる政策が見受けられる。もう少し職員自身のアイデアを生かした政策が実現できるよう、職員の意欲を引き出す取り組みを期待する。

そよ風パーク 指定管理期間の延長

指定管理者

東京都千代田区飯田橋 1 丁目 3 番 2 号
エネルギープロダクト株式会社
代表取締役 丸山一孝



「HOTEL WINDY」のロビー

指定管理期間

令和2年10月1日～令和8年3月31日までの指定期間を、令和2年10月1日～令和9年3月31日までに1年間指定期間を延長します。

延長の理由

そよ風パークの指定管理者の更新にあたり、改めて、その施設運営の在り方や施設の活用方法などを精査・検証する時間を確保するため、1年間、契約期間を延長することになりました。

今後は、総合評価型プロポーザル方式により公募する計画です。

条例の改正等

【山都町消防団の定員、任命、給与、分限及び懲戒、服務等に関する条例の一部改正について】

(概要) 現状、500名とあるものを現存員の数に合わせるものであり、消防団員の定数を420名に改めるものです。

【山都町手数料条例の一部改正について】

- ・公的年金
- ・児童扶養手当
- ・特別児童扶養手当
- ・医療・補償手当
- ・被害者救済 等

(概要) 左記の各種申請手続きの際に必要な戸籍証明書の交付手数料が無料になります。



【山都町水力発電所条例の廃止について】

(概要) 山都町清和水利発電所は、平成17年4月より稼働してきましたが、近年の大雨等により、土砂の流入等で稼働停止を行う期間が増えたことに加え、本年6月末には固定価格買取制度(FIT制度)の適用期間の満了により、売電価格が大幅に低下しました。

今後予見される維持管理費と売電収入を比較検討した結果、将来の収益が見込めないため、水力発電所を停止するものです。

通潤橋周辺整備事業 全体計画

通潤橋周辺整備事業



工 事 名 通潤橋ミエルテラス展望デッキ設置工事
契 約 金 額 6,487万8,000円
契約相手方 有限会社 甲斐工業
入札の方法 指名競争入札
内 容 通潤橋を一望できる展望デッキの設置。

工 事 名 通潤橋ミエルテラス外構工事 (南側)
契 約 金 額 1億8,865万円
契約相手方 大栄企業 株式会社
入札の方法 指名競争入札
内 容 通潤橋を訪れる人々が行き交う場所として、重要文化的景観に配慮した舗装材による舗装工事。

財産の取得

件 名 山都町運動公園中央グラウンド備品調達 (防災備蓄品)
契 約 金 額 435万9,140円
契約相手方 株式会社 HIRATA 熊本南営業所
入札の方法 指名競争入札
内 容 山都町運動公園中央グラウンドに保管する防災備蓄品 (飲料水、長期保存玄米ごはん、毛布、簡易ベッド、マット、テント、大人用おむつ、乳児・小児用おむつ、生理用品、カセットコンロ、カセットボンベ、備蓄燃料、発電機、投光器、コードリール、リヤカー、パレット)

工 事 名 山都町運動公園中央グラウンド備品調達 (グラウンド整備用機械)
契 約 金 額 844万4,700円
契約相手方 三輝物産株式会社
入札の方法 指名競争入札
内 容 山都町運動公園の整備用機械と備品の調達
 ・スポーツトラクタ本体
 ・芝刈り、グラウンド整地、人工芝清掃などのアタッチメント5種類

賛 否 の 表

賛 否 の 表

○：賛成 ●：反対

議案番号	事 件 名	議 決 年月日	採決 結果	東	坂本	眞原	西田	中村	矢田	興梠	藤川	飯開	吉川	後藤	工藤	藤原
議案第95号	工事請負契約の締結について(通潤橋ミエルテラス展望デッキ設置工事)	R7.9.25	可決	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第96号	工事請負契約の締結について(通潤橋ミエルテラス外構工事(南側))	R7.9.25	可決	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	○	○	○

山都町人権擁護委員の推薦について同意しました

【人権擁護委員(新)】

鳥井 三津子さん

(下名連石)

【人権擁護委員(再)】

渡邊 尚子さん

(北中島)

この10月から二期目を迎え、また新たな気持ちで人権擁護委員活動に取り組みます。よろしくお願いします。

【人権擁護委員(新)】

深田 隆浩さん(長崎)

私たちには生きる権利があります。併せて命を大切にする義務があります。どう生きるか、一緒に考えましょう。

活動内容 10月1日現在、山都町には5名の人権擁護委員が法務大臣の委嘱を受け、誰もが心豊かに安心して暮らせる社会の実現を目標に、人権啓発、人権相談、人権侵害の被災者救済に関わる活動をしています。困ったことがある方は一人で悩まず、ご相談ください。秘密は固く守られます。

山都町人権旬間人権相談日

12月2日(火)

午前10時から午後3時まで

山都町中央公民館及び役場清和支所

請願

件名

教職員の働き方改革推進とゆたかな学びの実現・教職員定数改善をはかるための、2026年度政府予算に係る意見書採択の請願について

提出日 令和7年8月7日

請願者 竹下 玲他

紹介議員 西田 由未子

付託委員会 総務常任委員会

審査結果 採択

審査意見 小規模校が多い本町の実情を踏まえた指導体制ができるよう教職員の処遇改善及び業務改選などの働き方改革を進める必要性を認識し採択とした。

採決結果 賛成多数により可決

10月9日付けで衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣他3大臣宛てに山都町議会議長名で意見書を提出

件名 オルタナティブスクール設立に関する請願

提出日 令和7年8月12日

請願者 中学校不登校の子をもつ親の会 中畠 友美

紹介議員 後藤 壽廣

請願の趣旨 町に対し学校に通いづらい子どもたちのためオルタナティブスクール設立に向けた協力と学校法人設立に向けた協力、学校法人設立の認可支援を求めるもの

付託委員会 総務常任委員会

審査結果 趣旨採択

審査意見 今回、白糸第一小学校跡地を本校としたオルタナティブスクール設立に向けた計画の内容を検討する中で、跡地利用には町、地元の理解を得れば問題ないが、学校法人として運営、財源、生徒の登下校の在り方など課題について不確定要素もあり、趣旨採択とした。今後は課題について、よく町と協議を重ねられたい。

採決結果 賛成多数により可決

採決結果 賛成多数により可決

表紙 第20回山都町写真コンテスト 山の都賞 撮影者：下川つる代さん(熊本市在住)

写真 タイトル：「人の夢は!!! 終らねェ!!!!」

(本人コメント) 右手前に ONE PIECE のルフィとチョッパーを入れて撮りました。この時の通潤橋は穏やかな表情に見えました。遠くから皆を見守る母親の様な優しさを感じました。

「議会だより」に関する
ご意見・ご感想は
右記の QR コードから
お寄せください。

QR コード(インターネット)



ユニバーサルデザインを活用しています。
ご意見お待ちしております。

次の定例会は、 12月の予定です。

※詳しい日程等については、議会事務局までお問い合わせください。(☎72-1289)

本誌で掲載していない9月定例会の議案と議決結果は、山都町 HP に掲載しております。



編集後記

8月豪雨により、田畑や農林道、家屋に多大な被害に遭われた方々に、心からお見舞い申し上げます。

さて、議会広報を通じて「皆さんの大事な税金が、暮らしを良くするためにどう使われているのか」「議員がどのような仕事をしているのか」少しでも伝えることができたでしょうか。

これからも町民の皆様に町政に関心を寄せていただき、率直な意見交換を重ねながらより良いまちづくりにつながる広報でありたいと思います。

(西田由未子)

発行責任者

議長 藤澤 和生

議会広報委員会

委員長 眞原 誠

副委員長 西田由未子

委員 矢内田秀典

委員 興相 誠

委員 後藤 壽廣

委員 工藤 文範

